

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2020
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). Vol.36, (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20190000-0400

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

二〇一九年は、慶應義塾から神戸寅次郎、気賀勲重、堀江一らがはじめて海外留学生に選ばれてから、二〇二〇年の節目になった。本誌ではこれを記念し、「近代日本と留学」と題する特集を組み、和光大学の辻直人氏から「留学の日本近代化に果たした役割」、神戸学院大学の辻村亮彦氏から「明治十八年文部省海外留学生としての梅謙次郎」、高麗大学の徐明一氏から「兪吉濬のアメリカ留学と近代地理学の受容」、また慶應義塾福沢研究センターの加藤学陽氏から「神戸寅次郎のドイツ留学と法学通論講義」、と題する意欲的な論説・資料紹介を、それぞれお寄せいただいた。心より感謝申し上げます。

一般公募論文は、七本の投稿があったが、査読の結果、このうち論説が四本、研究ノートが二本、掲載されることとなった。近代日本における理想主義的社會政策論の意義、矢野文雄と明治十四年の政変、辛亥革命後日本の対華外交の転換、第一次世界大戦と堀江掃一の戦後日本経済指針、一八八〇年代における「女性」概念をめぐって、青森県における児童集団疎開の受け入れについて、とテーマは多岐にわたるが、いずれも近代日本研究に資する意欲作と考えるものである。なお、資料紹介として、例年通り、福沢論吉・慶應義塾関係の新資料紹介、および明治期慶應義塾への朝鮮留学生に関する資料を取めた。

本誌は、近代日本研究に関する知的フォーラムとして、今後も慶應義塾内外に開かれた場を提供していきたいと考えている。次号は二〇二一年二月刊行予定である。多くの意欲的な論考の投稿を期待する。